

平成23年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4 - 2 - 7
事務事業名	とくしま強い農林水産業づくり事業（農業）			担当課係	産業振興課
総合計画上の位置付け	大項目	5. 「日（いとなみ）が輝く」		記入担当者	
	中項目	②産業の振興		内線等	
	小項目	1. 安全・安心な特色ある地域農林水産物の産地育成・ブランド化とそとのための環境整備		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	6	農林水産業費	項	1
	目	3	農業振興費	事業	9
開始年度	平成 17	年度	根拠法令・要綱等	とくしま明日の農林水産業づくり事業実施要領	

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 事業主体：東とくしま農業協同組合、小松島南部わが国産省エネ栽培研究会 受益者：農業者
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） ・雨よけハウスの導入整備：雨よけハウスを導入することで、気象条件に左右されにくい周年栽培が可能となり、受益者の農家経営の安定に寄与し地域農業の担い手化を図ることを目的とする。 ・循環扇・換気扇の導入整備：キュウリ・トマトハウスに換気扇と循環扇を導入することで得られる省エネ効果と果実の品質向上と収量安定による低コスト化を図り、安定的なハウス園芸産地の維持発展を目的とする。 ・色彩選別機の導入整備：本市は水田経営を中心とする農家が多いが、近年の米販売価格の低迷により米生産コストの採算割れは著しく、農家経営はもとより地域経済にとって深刻な問題となっている。ついでに、農産物供給基地としての役割を再検討し、生産者・行政・関係機関が連携のもと、減農薬栽培による「環境負荷軽減等の持続可能な農業生産」「消費者への安全・安心の提供」「安定的な品質・美味しさ」という品質責任を達成することで、ブランド米産地として再生を図ることを目的とする。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） ・雨よけハウスの導入支援（東とくしま農業協同組合） ・循環扇・換気扇の導入支援（小松島南部キュウリトマト省エネ栽培研究会） ・色彩選別機の導入整備支援（東とくしま農業協同組合）
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） ・雨よけハウスの導入整備：本市には水田経営を中心とする農家が多く、近年の米販売価格の低迷のため、経営の見直しを迫られており、また就農に興味がある自営業者や定年退職者当が地域に存在しているが、安定的な農業経営を望んでいることから参入に二の足を踏んでいる現状である。そこでJAの産直市と連携し、一年を通して必要な葉物野菜を中心とした栽培体制を整備したいとの要望があった。 ・循環扇・換気扇の導入整備：燃油価格上昇する昨今の情勢があるなかで、循環扇・換気扇の導入による省エネ栽培をすることで燃油の節約等の経営の低コスト化と軽労働化を図りたいとの要望があった。 ・色彩選別機の導入整備：雨よけハウスと同様に本市には水田経営を中心とする農家が多く、近年の米販売価格の低迷のため、経営の見直しを迫られている。そのような中、減農薬で安定的な美味しい米づくりに取り組むことで農家所得が安定、ひいては米販売価格の安定により、水田経営の維持が期待できるため、導入したいとの要望があった。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明					指標化できない成果
	単位		H22	H23	H24	H25	将来目標 (年度：平成)	
	目標							
実績								
達成度								

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H22	H23	H24	H25	指標の説明	
	色彩選別機の導入	計画	円						事業費
		実績				5,724,600			
雨よけハウスの導入	計画	円					事業費		
	実績			5,400,150	22,845,900				
雨よけハウスの棟数	計画	棟			27	22	棟数		
	実績			6	21				
換気扇・循環扇の導入	計画	円		7,204,050	3,717,000		事業費		
	実績			5,642,700	2,795,100				
換気扇・循環扇の台数	計画	台		64	30		台数		
	実績			64	30				

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		22年度決算	23年度決算	24年度決算	23年度予算	
全体コスト（円）	A 直接事業費	13,174,000	12,001,000	0	15,067,601	
		財源内訳	11,186,000	11,456,000		
		国庫支出金	0	0		
		地方債	0	0		
		利用者負担	1,988,000	545,000		
	B 一般財源	人件費 ①×②	1,041,503	1,110,532	0	
		職員平均人件費①	5,207,515	5,552,662		
		従事した割合②/人	0.2	0.2		
	A + B		14,215,503	13,111,532	0	
	単位コスト	活動指標の説明	受益戸数 64戸	受益戸数 33戸		備考
	活動指標1 単位当たりコスト	222,117	397,319		平成22年4月1日現在 人口41,507人	
	市民一人あたりのコスト	342	318		平成23年4月1日現在 人口41,204人	

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) ・雨よけハウスの導入整備：水田経営にハウス野菜栽培を導入したことにより、野菜の安定した計画出荷が可能となり、農業所得の向上が見込まれることから市、農協で連携しつつ推進する必要がある。 ・循環扇・換気扇の導入整備：突然の燃油価格上昇する情勢がある中で、循環扇・換気扇の導入による省エネ栽培を行うことは、燃油の節約等の経営の低コスト化と軽労働化を図っていくことの重要性が高まっている。 ・色彩選別機の導入整備：現在、消費者から、環境負荷軽減等の持続可能な農業・安全・安心な美味しい農産物の供給が求められ、その品質責任を達成する重要性が高まっている。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 毎年、農産物の安定供給と農業者の経営安定へのために、機械・施設の整備への支援を継続的に行って欲しい要望がある。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	本市農林水産業にとって主力農産物の一つである水稲及びブランド産品であるキュウリ・トマトの生産消費拡大を図ることは地域農業振興に大きな影響力を持っている。そのため農業者団体及び農業協同組合に機械、施設の支援を行うことは必要性が高く、本市の農産物の知名度向上に繋がっているため、本市のイメージアップになっている。
	<input type="checkbox"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="checkbox"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	本市農林水産業の維持発展のためには、機械設備の導入は必要不可欠であり、農産物の産地化を図るためにも市や県が連携して補助を行うのは妥当である。市と農協及び農業者団体が連携することで、本市の農林振興方針と農産物のブランド力の強化が可能となるため、市で行う必要性は高い。
	<input type="checkbox"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="checkbox"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	補助率は、とくしま明日の農林水産業づくり事業実施要領で定められており、その中で実施しているため効率的である。
	<input type="checkbox"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="checkbox"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="checkbox"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	輸入農林水産物や競合産地に打ち勝つためにも産地づくりやブランド力を高める事業が必要であり、初期投資費用のかかる機械・施設の補助は重要になる。加えて、農業者の経営は年々圧迫されており、当事業を中止すれば、機械・施設の導入が困難となり、農業者の経営は深刻なものとなるため、比較的緊急性がある。
	<input type="checkbox"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="checkbox"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	雨よけハウスの導入においては、受益者の経営安定・作物の安定供給・地域の担い手化が可能となった。循環扇・換気扇の導入によりキュウリトマトハウス農家の更なる生産性向上につながり安定的経営をすることが可能となった。色彩選別機の導入整備では、減農薬栽培によるカメムシ等の被害粒を除去することが可能となり、品質の安定が可能となった。また、どの事業も将来の担い手を育成する環境が整い、強い産地に寄与することができた。
	<input type="checkbox"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="checkbox"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="checkbox"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	農業経営の安定化及び本市農業の維持発展を図るためにも、事業を実施する際に、本市農業施策との合致及び効果的な機械、施設であるかを精査し、農産物のブランド力を強化していく必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

1	1	拡 充 す る	80 点 以上	1	判定に至った理由	本市農林水産業の活性化には、農業施設設備の導入が必要である。しかし、初期費用が多くかかるため、農業者の経営を圧迫する。そのため、農業者の安定的経営を図り、生産力を向上させるためにも県単独事業「とくしま明日の農林水産業づくり事業」を有効活用し、施設整備を進め、今後とも継続するべきである。	
	2	現状のまま継続する	60 ~ 79 点				
	3	改善・効率化し継続	50 ~ 59 点				93
	4	見直しの上縮小する	40 ~ 49 点				
	5	終期設定し終了	30 ~ 39 点				
	6	休 止	20 ~ 29 点				
	7	廃 止	19 点 以下				

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

1	1	拡 充 す る	判定説明	農民生産者・JA等と連携を図りながら、本市農業振興の発展と農業者の経営安定に寄与する本ハード事業を有効活用していく。
	2	現状のまま継続する		
	3	改善・効率化し継続		
	4	見直しの上縮小する		
	5	終期設定し終了		
	6	休 止		
	7	廃 止		